

論文の内容の要旨

論文題名

Verification of the usefulness of assessment and risk control sheet that promotes management of cancer drug therapy

(がん薬物療法のマネジメントを促進するアセスメント・リスク管理シートの有用性の検討)

掲載雑誌名

Frontiers in Pharmacology, 掲載予定

保健医療学研究科保健医療学専攻 内部障害リハビリテーション領域 本間 織重

内容要旨

【背景・目的】我々の施設では、独自に開発したがん薬物療法有害事象評価シートを用いて、抗がん剤治療当日の医師の診察前に看護師が対面で有害事象の評価を行い、必要に応じてがん関連の専門看護師・認定看護師によるチームで看護を実践している（以下、診察前問診とする）。評価シートの特徴は、前回治療から治療前日までと当日の症状に分け NCI-CTCAE ver.5.0 に従って記録し電子カルテで看護師、医師、薬剤師が有害事象の出現を網羅的かつ端的に情報共有可能となる点である。診察前問診を受ける患者に対してアンケートを実施し評価シートの有用性や改善点が明らかになるのではないかと仮説を立てた。

【方法】対象は、外来で診察前問診を受けた腫瘍内科患者（旗の台病院 144 名、豊洲病院 30 名）とした。評価シートには、バイタルサイン、パフォーマンス・ステータス、体重などの客観的データ 7 項目と、がん薬物療法に特徴的な有害事象の 13 項目を含んだ。アンケートでは、評価シートの内容・質、回答者の満足度、構造上の長所、改善点などを 5 段階で評価した。統計学的解析は、有意水準を両側 5% とした。

【結果】患者アンケートは 160 名（旗の台 132 名、豊洲 28 名）からの回答を得た。評価シートは、口内炎 ($p=0.017$)、味覚異常 ($p=0.006$) の有害事象の把握に有用で、評価シートを用いた診察前問診で高い安心感が得られた。

【考察】独自の評価シートは有害事象を評価する有効なツールとなることが示唆された。